



2023年8月10日

各位

上場会社名 株式会社エフオン
代表者名 代表取締役社長 島崎 知格
(コード番号:9514 東証プライム)
問合せ先 常務取締役 小池 久士
(TEL.03-4500-6450)

2023年6月期通期連結業績の予想値と実績の差異等に関するお知らせ

2023年8月12日に公表いたしました2023年6月期(2022年7月1日～2023年6月30日)の通期業績予想と、本日公表いたしました実績に差異が生じたのでお知らせいたします。

また、当社は個別業績予想を開示していませんが、2023年6月期(2022年7月1日～2023年6月30日)の個別業績につきましても、前事業年度の実績値と差異が生じたのでお知らせいたします。

記

1. 通期業績の予想値と実績の差異について

2023年6月期連結業績と予想値の差異(2022年7月1日～2023年6月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	17,000	2,500	2,200	1,050	69.62
当期実績 (B)	16,949	1,397	1,286	824	38.36
増減額 (B-A)	△51	△1,103	△914	△226	—
増減率 (%)	△0.3	△44.1	△41.5	△21.5	—
(ご参考) 前期実績 (2022年6月期)	13,258	1,299	1,174	893	41.46

2. 通期連結業績と予想値の差異の理由

売上高は省エネルギー支援サービス事業の新規案件の受注が部材不足や工期順延により翌期繰越となったことや日本卸電力取引所の市場価格が上半期に高値で推移し電力小売事業の新規開拓を停止したことで想定額をやや下回る状況で推移いたしました。また、グリーンエネルギー事業における発電事業は概ね順調に推移したものの、山林事業の原木供給を外部販売からグループ内発電所用燃料原材料に一定程度切替えたため、原木の外部売上高は予想に対し劣後する状況となりました。

営業利益に関しては、グリーンエネルギー事業の各バイオマス発電所の使用する未利用木材の比率を向上させる計画を履行しましたが、どの地区の燃料チップも含水率が高く燃費が悪化したことと、新規に稼働したエフオン新宮発電所あての燃料調達に関し船便を多用したことで運送諸掛り、貯蔵管理費用等が大幅に増加し収益を圧迫する結果となりました。また、発電所の健全な維持管理を推進し突発的な故障の予防保全措置としてメンテナンス費用引当金を毎期末に見直し

計上しておりますが、新設のエフオン新宮発電所が加わったことで費用が増加いたしました。これらの結果、当初想定した原価を大幅に超える実績となり営業利益を減少させることとなりました。

経常利益については、エフオン新宮発電所の稼働が遅延したことに起因する違約金収入を営業外収益に計上いたしましたが、この他一部の子会社発電所建設資金に係る長期借入金の利息を固定化したことで営業外費用が増加いたしました

親会社株主に帰属する当期純利益は、営業利益、経常利益の減少により税金費用等が減少しておりますが、各利益の減少が要因で予想値を大幅に下回る結果となりました。

3. 個別業績の前期実績との差異について

2023年6月期通期個別業績の前期業績値との差異（2022年7月1日～2023年6月30日）

	売上高	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	円 銭
前期実績 (A)	3,426	547	543	25.22
当期実績 (B)	1,837	400	305	14.24
増減額 (B-A)	△1,589	△147	△238	
増減率 (%)	△46.4	△26.9	△43.8	

4. 個別業績の前期実績との差異の理由

売上高は、電力売上高が増加したものの当社グループのエフオン新宮発電所が竣工し建設工事に係る完成工事売上高が大幅に減少したことによります。各利益につきましても、省エネルギー支援サービス事業のプロジェクトが満期終了し減価償却費が減少したことや電力小売り事業の電力仕入高が減少し利益に貢献したものの、子会社からの受取配当金が前期と比較して大幅に減少したことによります。

以 上